

郷土館だより

Vol. 18. No.1
1996. 1. 31

三嶋大社「お田打」

牛で田を起こす所作。福太郎がハナトリを行う。
最後に牛が“モー”となく。

企画展「米作りのくらし」より

(平成7年11月19日～平成8年1月28日)

およそ2千年前—弥生時代から、長く日本人の経済と食生活を支えてきた米作り。今回の企画展では、日本人の生活に影響を与えてきた米作りを「昔の米作り」「米作りと年中行事」「昔の農具」「現在の米作り」とテーマを設定し、農具他84点の資料と55点の写真パネルで展示解説しました。

かつての米作りは、田起こし・田植え・田の草取り・稲刈り・稲こきと、人手のいるつらい農作業でした。このため、田植えの共同体「イイ」の結束は強く、農作業の合い間のさまざまな年中行事は農民の楽しみでした。

農民の作業負担を軽くするため、農機具が改良を重ねられ、昭和に入ると動力が使用され始めました。さらに戦後の高度成長下で機械化・効率化が進み、各作業は短い時間に昔に比べると楽な作業でできるようになりました。

しかし一方では、「イイ」がくずれ、年中行

事はすたれてきました。また農家には農機具・肥料を購入する経済的負担がのしかかり、重労働・低収入を嫌って農業を継ぐ若い世代が激減しています。消費者の米離れ、輸入米の拡大、水田の減反など、米作りをとり囲む状況は深刻なものとなっています。

こうした中で、米作りの今昔を振り返ることは、日本人を培った伝統的風土とその将来について考える良い機会といえましょう。

また特に、三嶋大社で毎年正月七日に催される神事「お田打^{たうち}」を取り上げ、その所作について解説しました。これは一年の始めに神前で稲作過程を模擬的に演じ豊作を祈願する伝統芸能で、室町時代以前から伝えられています。神と人と大地が一つとなって取り組まれた中世の米作りの息吹をかいまみることができます。

この他、イネの先祖を探り、米から作られた食品の数々、三島の水路図等を展示解説しました。

郷土館講座・郷土教室

小学生の体験学習の報告

郷土館では、小学生を対象とした体験学習を今年も実施しました。
そのうちのいくつかを紹介しましょう。

■縄文土器作り教室

毎年夏休み恒例の郷土館行事です。

この教室は、大変人気があり、例年小学4～6年生の3学年で募集すると、30人の定員に約3倍の申し込み者があり、どうしても抽選で参加者を決めると6年生の希望者が落選してしまうので、本年から、募集要項を変え、参加できる学年を小学5～6年生のみとし、人員も35人として5人増やして募集しました。

縄文土器を作るためには3日間必要です。

7月26日(水)=土ねり

7月28日(金)=成形

8月25日(金)=焼成という日程で実施しました。

猛暑の中、3回とも元気よく参加し、焼成が終って、自分の作った縄文土器が、灰の中から出てきて、見事な赤銅色に焼き上がり、その土器を見つめる子ども達は、感動もひとしおで、夏休みの良き思い出と宿題(自由研究・工作)も一緒に仕上がり満足そうでした。



“できあがった縄文土器”

■夏の郷土学習

「箱根旧街道を歩く」

指導 静岡県埋蔵文化財調査研究所
主任調査研究員 杉浦幸男さん

今年も、猛暑の中、小学校4～6年生17人が東海道の箱根西坂一接待茶屋から三ッ谷新田まで、約2里(8km)の道のりを歩き下りました。

途中にある一里塚や史跡・石だたみなどの歴史的な事を学習しながらの遠足でした。

杉浦先生が作ってくれた問題集つきテキストの答えをさがしながら、お話を聞いたり、カブト岩や道祖神の絵を描いたり、芭蕉の気分で一句詠んだりと変化に富む勉強の旅で、昔のメインロードと昔の旅人の苦勞を感じ、ふるさと三島への理解を深めました。

こわめし坂を歩いて疲れたことを思い出に、今年の夏の郷土学習も無事終了しました。



「郷土教室」

学校休業日（第二土曜）に実施する小学生（4～6年生）を対象とした体験学習の教室です。2学期は3回開催しました。

第3回「古代の生活～火起こし体験～」

9月9日(土)

講師 三島市埋蔵文化財調査整理室

学芸員 池谷初恵さん

初めに、池谷先生から大昔の人々の衣・食・住や古代人の知恵についてお話を聞きました。

次に石器や土器についてその作り方や使い方などいろいろなクイズを出題しながら説明を聞きました。

最後に、外へ出て、いよいよ「火起こし」体験です。“舞ぎり法”とよばれる火起こし方法の説明を受け、先生の手本を真似て、4人1組に分かれ、実際に火を起こし始めましたが、煙は出るようになって、種火がつくまではとても大変そうでした。

全員火がつくまでガンバリ、たき木を燃やして焼きイモを皆で食べ思い出作りをしました。



第4回「昔話を聞いて農具を使う」

講師 郷土館運営協議会副委員長

鈴木辰己さん

郷土館の2階に復元してある農家の居間のイロリを囲んで、参加した子供たちは、鈴木先生の昔の子どもの生活や遊びなどのお話を聞き、疑問に思うことを今の子どもの感性でとらえたままに質問しました。

その趣向は、おじいちゃんが孫に語りかけそれを興味深く聞いているような雰囲気でした。続いて、郷土館前の広場で昔ながらの農作業を

体験しました。刈り取った稲を千歯こきで脱穀し、扇風機や唐箕で選別しました。

稲から白米になるまでの過程を実際に作業をしながら勉強し、子どもたちも、あらためて米作り、農業の大変さ・ありがたさを感じた様子でした。 (平成7年11月11日(土)実施)



第5回「紙飛行機を作って飛ばそう」

講師 竹細工玩具研究家

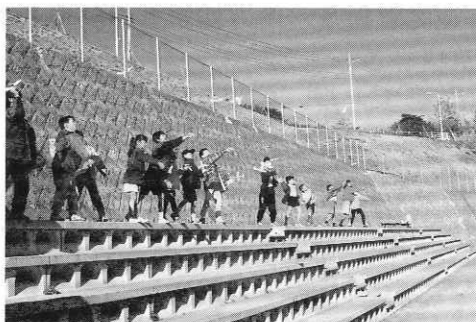
瀬川 到さん

ケント紙に型紙をもとに印刷した各部分をハサミで切り、しっかりとのりづけしながら紙飛行機の型を完成させていきました。

午前中に作った紙飛行機を持って、広い山田中学校のグラウンドで飛ばしてみました。

はじめは、バランスや重心が悪くなかなかうまく飛びませんが、根気よく修正し、飛ばし方のコツを伝授されると、今まで、飛ばしてもすぐにストーンと落ちてしまった紙飛行機が、せん回しながら、かなり長時間、また長い距離を飛び続けるようになり、子どもたちも大喜びでした。

最後に、瀬川先生が作った、おもしろい形をしたり、大・小いろいろな紙飛行機を1つずついただいて持ち帰り、楽しい紙飛行機大会になりました。 (平成7年12月9日(土)実施)



企画展「三島の成り立ちⅠ」 ～三島の自然環境・道・歴史～ (終了報告)

郷土館では、平成7年2月26日から5月7日まで延べ62日間の会期で企画展「三島の成り立ちⅠ」を開催しました。

この企画展のテーマは、「私たちのふるさと三島ってどんなマチだろう？」という改めて考えてみると明確に答えられない素朴だが重要な難問でした。

しかし、多くの協力者のおかげで、三島がどのような自然環境・地形の上に成り立ち、どのような歴史的・民俗的環境に育まれて発展してきたか、これまでに発掘・発見された戦国時代までの資・史料や文化財等の展示によって概観することができ、大変有意義な展示だったと確信しました。

無事終了できたことをご報告しつつ、この企画展にご協力を惜しまれなかった関係者各位に厚く御礼申し上げます。(入館者17,605人)

企画展「三島と戦争」

関連講座 実施報告

平成7年8月13日(日)
於 郷土館1階会議室

講師 郷土館運営協議会委員長
秋津 亘さん

演題 「三島野戦重砲兵連隊と戦争」

連隊設置から消滅までの歴史をテーマに、42人の参加者が聴講しました。

大正8～9年の野重砲第二・第三連隊の誘致から話しを始められ、火砲の種類などもまじえつつ、連隊という一地方の軍事行動も日本全体の政治情勢とも連動していることを力説され、最後に、日本軍ないし日本国民の加害者意識と被害者意識の両面性の心理についてふれられ、先きの大戦の傷痕は50年経っても癒されない記憶として残っている旨述べられて講演を結ばれた。

静岡県埋蔵文化財巡回展 「静岡の原像をさぐる」 (終了報告)

平成7年10月6日から13日まで、7日間にわたり、郷土館一階展示室で、県内の遺跡や出土品を紹介する「静岡県埋蔵文化財巡回展—静岡の原像をさぐる」が開催されました。

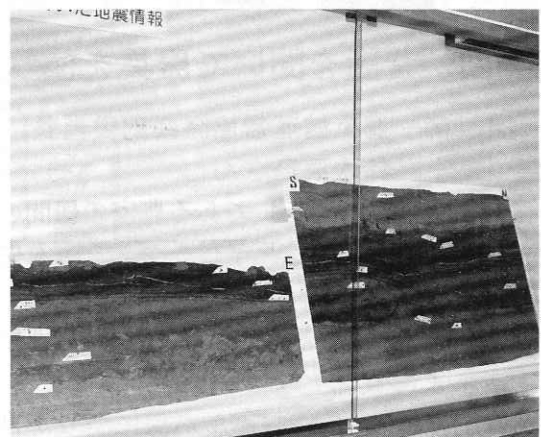
これは静岡県教育委員会・(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所の主催で、県の東部・中部・西部の3地域を巡回展示し、この内東部会場として郷土館で開催されたものです。

展示されたものは、三島市内で発見された旧石器時代の落とし穴や、県東部と西部の土器の比較、静岡平野北部から出土した多量の田下駄や水田跡、静岡市で発見された古代の東海道など、最近の発掘調査で得られた貴重な文化遺産が数多く紹介されました。

珍しいものでは地震痕跡(地割れ、噴砂、断層)の土層断面や写真で、多くの来館者の関心を集めていました。(入館者数1336人)



静岡県東部と西部の弥生式土器の比較



地震情報がわかる土層断面

郷土館「ふるさと講座」

実施報告

市民を対象に、三島市内を4地域(北上・錦田・旧三島町・中郷)に分けて、それぞれの史跡めぐりを通じて三島の歴史・民俗・文化に対する理解を深めてもらう「ふるさと講座」(全4回)を実施しました。

〔第1回〕北上地区を歩く

平成7年9月28日(木) 講師 迫田信行氏
三島駅北側の北上地区は、戦後、農村地帯から文教・住宅地域へと著しく変貌をとげた地域です。

受講者25人は、市のマイクロバスに乗って次の日程(史跡めぐりコース)で行きました。
楽寿園前—青木橋・境川—耳石神社—佐野滝之本連水句碑・勝俣家柿の木—見目神社—耕月寺—末広山—道祖神—駒形神社—龍沢寺—八幡神社—徳倉歎喜寺—八乙女神社—徳倉城跡—楽寿園前



〔第2回〕錦田地区を歩く

10月5日 講師 辻 真人氏

大場川東岸から箱根にかけての錦田地域は、水田と丘陵部の畑作地帯が広がります。

朝の出発時に、小雨が降っていましたが、日中は曇となり、初音ヶ原遺跡や玉沢妙法華寺など、次の日程で実施しました。

楽寿園前—谷田初音ヶ原遺跡—玉沢妙法華寺—腰巻地区石畳—山中城—くも助徳利の墓—願合寺石畳—宗閑寺—芝切地藏堂—笹原一里塚—こわめし坂—柳庵—楽寿園前



〔第3回〕旧三島町を歩く

10月11日(水)講師 辻 真澄氏

史跡めぐりに出発する前に、郷土館会議室で、先生から江戸時代の交通、三島宿の話聞きました。「三島宿風俗絵屏風」を見ながら説明を受けた後、次の日程で見学しました。

楽寿園前—新町橋—農兵調練場—陣屋跡—問屋跡—赤橋—水泉園—長円寺—円明寺—問屋会所跡—御殿地跡—本陣跡—時の鐘—広小路—千貫樋—秋葉神社—楽寿園前



〔第4回〕中郷地区を歩く

10月18日(水)講師 伊達 主氏

三島南部の大水田地帯だった中郷地区も、住宅・工場・商店が多くなっています。

ここは、次の日程で、ふるさと探訪しました。
楽寿園前—向山古墳群—覚応院塚—丸山古墳—持殊院—秋山富南の墓—六所王子神社—長福寺—在庁屋敷跡—八反畑稲荷—新谷山神—玉林山禅叢寺—温水池—楽寿園



三島市郷土館

企画展「三島の近世の教育

～並河誠所・秋山富南・吉原守拙を中心に～

開催のお知らせ

3月から開催する企画展についての概要をお知らせいたします。

今回の企画展は、郷土館で過去何回か行ってきたふるさとの人物を取り上げるもので、いわゆる「人物シリーズ」の一環です。

1. 主催

三島市教育委員会・三島市郷土館

2. 開催期間

平成8年3月17日(日)～5月12日(日)

* 月曜休館、月曜祝日は開館・翌日休館

* 開館時間 9:00～16:30 (～3/31)
9:00～17:00 (4/1～5/12)

3. 会場

三島市郷土館 1階展示室
三島市一番町19-3
楽寿園内 TEL71-8228

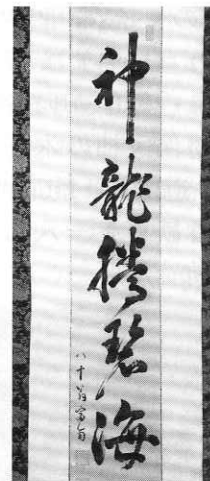
4. 開催趣旨

江戸時代の三島は東海道三島宿として繁栄しましたが、一方、伊豆・東駿の経済・文化・教育の中心であり、特に庶民教育は早くから普及していました。漢学塾・寺子屋教育の指導者には優れた人物が輩出し、また遠方から学徳ある指導者を招聘しています。この中で、伊豆に地理学をもたらした並河誠所・「豆州志稿」を編纂した秋山富南・明治初期の学校教育の基盤作りに尽力した吉原守拙等は、後世に影響を与える業績を残すとともに多くの門人の教育にあたりました。

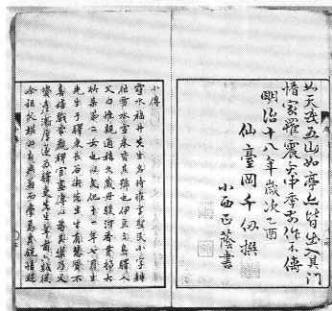
今回の展示はこの3人を中心に、三島の庶民教育の系譜と、そこに花開いた庶民の文化を取り上げます。また、明治5年開校した小学校「三島巒」の資料を展示し、当時の教育に注がれた期待と情熱を顧み、学校教育の原点を考えます。

5. 展示内容

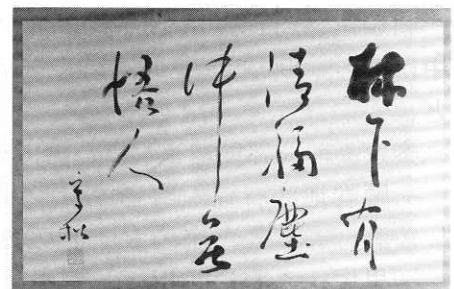
- (1) 伊豆の地誌「豆州志稿」の編纂と秋山富南
- (2) 漢学塾の草分け「仰止館」と地理学者並河誠所
- (3) 小学校の前身「開心庠舎」と三島の聖人吉原守拙
- (4) 三島の漢学塾・寺子屋教育の系譜と門人達
- (5) 学制発布と「三嶋巒」



秋山富南の書



福井雪水の書物



吉原守拙の書

収集資料報告

資料名	提供者	受け入れ日	点数	類
半襟	中島まつえ氏	平成 7. 8.13	2	民
てがら (日本髪飾)	同	同	2	民
弾薬箱 (野重使用)	蛭海晴夫氏	平成 7. 8.16	1	歴
戸車	小林 (愛樹園)	平成 7. 9.1	4	民
杼	同	同	3	民
ポーラ	中島部農会	平成 7. 9.20	1	民
静窓自楽 (書籍)	石井種生氏	平成 7.10.13	1	他
宇野朗追悼集 (同)	同	同	1	他
写真 (宇野朗)	同	同	3	他
楽寿園絵葉書セット	岩崎伝太氏	平成 7.10.17	1	他
張り板	杉山一郎氏	平成 7.10.18	2	民
箒 (粉掃き)	同	同	3	民
軍刀 (銘藤原吉久)	石川宏次氏	平成 7.11.10	1	歴
杵	同	同	2	民
幟旗 (書店用)	中島まつえ氏	平成 7.11.29	1	民
杵 (一斗)	石川精米店 (新谷)	平成 7.12.26	1	民
杵 (二〇リットル)	同	同	1	民

平成7年度は戦後50周年の年にあたり、郷土館でも特別企画展「三島と戦争」を開催いたしました。その影響もあって、寄贈された資料の中にも戦時中の資料が何点かありました。

そのひとつ「弾薬箱」は三島市にあった野戦重砲兵旅団使用のものということです。通称「野重」は現在文教地区になっている所に二連隊と三連隊があり、三島市の商家はこれに納める軍需製品で潤ったと言われます。戦争は二度と起こって欲しくないものですが、野重に関する資料は今では貴重な歴史資料といえるでしょう。そのほかに「軍刀」一振りも寄贈されました。

民俗資料の中では「ポーラ」がおもしろいものでした。いわゆる背負い籠です。竹を編んで籠に作ったもので、農家の主婦が畑に出たり、取れた野菜などを売り歩くための運搬具として頻りに使用された道具です。よく聞く通称名には「ショイ籠」がありますが、伊豆や三島では「ポーラ」が一般的のようです。「ポーラッショイ」と呼ばれた働き者の主

婦たちのことが語り継がれています。彼女らは「ポーラ」に野菜などをいっぱい詰めて箱根を越え、熱海や湯河原の旅館街を売り歩いたものだと言います。「ポーラ」には丸ポーラと角ポーラがありますが、古くからあったものは丸ポーラのようなようです。

その他の資料として、宇野朗博士の関係資料が寄贈されました。宇野博士は三島出身の医師。東京大学医学部で学び、後に「楽山堂病院」を設立したり、東京大学医学部の基礎を作ったり、日本の中央で医学発展に大きな功績のあった人物です。宇野博士の墓は三島市内の常林寺にあります。将来の企画展示の中で、これらの資料を生かしたいと考えております。



角ポーラ

郷土館刊行販売図録等の お知らせ

出版物名	単価	備考
浮世絵三島絵はがき (4)	100	
三四呂人形絵はがき (1)	100	
三四呂人形絵はがき (2)	100	
ふるさと探訪	400	
三四呂人形図録	1,200	企画展関連
三島本陣家文書目録	500	調査研究
勝俣文書目録	200	調査研究
ワラと生活	700	企画展関連
はこぶ展	500	企画展関連
東嶺禅師展	800	企画展関連
呑山、他石展	600	企画展関連
瀧の本連水展	800	企画展関連
石と生活	1,000	企画展関連
昭和史三島	500	企画展関連
水と生活	1,200	企画展関連
祝いごと展	1,100	企画展関連
続三島の昔話	500	
竹と生活	500	企画展関連
三島本陣家資料集 (1)	1,600	調査研究
三島本陣家資料集 (2)	1,500	調査研究
三島本陣家資料集 (3)	1,700	調査研究
三島本陣家資料集 (4)	1,300	調査研究
三島本陣家資料集 (5)	1,400	調査研究
三島本陣家資料集 (6)	1,500	調査研究
三島本陣家資料集 (7)	1,900	調査研究
三島本陣家資料集 (8)	2,200	調査研究
三島本陣家資料集 (9)	2,200	調査研究
三島本陣家資料集 (10)	2,300	調査研究
三島本陣家資料集 (11)	2,000	調査研究
三島の成り立ち1	800	企画展関連
三島と戦争	1,200	企画展関連
中空の日記	1,200	調査研究
三四呂人形絵はがき (3)	H7発注	予定

建築概要

構造／鉄筋コンクリート造り3階建
 面積／1階－288.00㎡(企画展示室・会議室・事務室・トイレ・ロビー)
 2階－302.56㎡(常設展示室・収蔵庫)
 3階－302.56㎡(常設展示室・収蔵庫)
 計 893.12㎡

■郷土館事業

郷土館講座

専門講師を招いての歴史、民俗、郷土に関する一般教養講座。

ふるさと講座

一般市民を対象に、三島の歴史・民俗・文学等の講演及び市内史跡めぐり。4回前後学習します。

企画展講座

企画展に合わせて開催する専門講師による関連講座です。

郷土教室・体験学習

小学生を対象に、縄文土器作り教室(夏3日間)、夏の郷土学習(夏1日)、郷土教室(学校休業日5回)などを実施します。

利用案内

休館日 毎週月曜(祝日の時は翌日)
 12月27日～1月2日
 開館時間 午前9時～午後4時30分(3/31まで)
 入場無料 (但し、楽寿園入場の際、有料)



郷土館だより No.53

平成8年1月31日発行
 (年3回発行)

編集 三島市郷土館
 住所 〒411 三島市一番町19-3 楽寿園内
 TEL 0559-71-8228
 FAX 0559-81-3730
 発行 三島市教育委員会